

第1学年1組 図画工作科学習指導案

指導者

研究主題

つくりだすことに熱中する図画工作科学習
～対象との対話を重視しながら、自分らしく表現できる子どもの姿を求めて～

1. 題材名 はこはこハウス 「ゆめのまち たかくら」 A表現(2)工

2. 指導観

○ 本学級の児童は、図画工作科の学習が好きで、どの題材にも楽しく取り組んでいる。これまでの学習では、「チョッキンパツでかざろう」、「はこでつくろう」、「どうぶつむらのピクニック」などの工作に取り組んできた。「チョッキンパツでかざろう」では、はさみの使い方が上手になり、紙の折り方や切り方を工夫して、新しい形を夢中になってつくり、自分の形を友達に教え合う姿も見られた。「はこでつくろう」では、算数科の学習「いろいろなかたち」と関連付け、大小いろいろな箱を積み重ねて、飛行機、ロボット、車、家など、自分のつくりたいと思うものをつくることのできた。しかし、つくりたい物が思い付かず、作品がなかなかできなかった児童や、接着がうまくいかなくてすぐに壊れてしまった児童も少なくなかった。「どうぶつむらのピクニック」では、接着剤の使い方を「知識・技能」として学び、箱やひもなどの身近な材料をしっかりと接着させようと、試行錯誤を繰り返した。初めはうまく接着できなかったが、コツを伝え合いながら、徐々に自分が表したい動物を表すことを楽しめるようになった。

※ 図工に関するアンケート結果（7月実施）

質問項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①	92.9%	3.6%	3.6%	0%
⑨	67.9%	14.3%	7.1%	10.7%
⑫	53.6%	21.4%	21.4%	3.6%

7月に行ったアンケートでは、図画工作科の学習が好きな児童が96.5%（質問項目①）だった。一方で、「自分でつくり方を考えたり工夫したりすること」（質問項目⑨）に苦手意識のある児童は17.8%、「友達に相談しながら作品をつくること」（質問項目⑫）に苦手意識のある児童は25%であった。そこで、既習を生かし、身近な材料や用具を工夫して使い、自分が表したいことを考えて表現する力を付けると共に、友達と関わりながらより工夫して作品をつくることのよさを味わわせたいと思い、本題材を設定した。

○ 本題材では、あき箱を中心に身近な材料を使って自分だけの特別な家を楽しくつくる活動を通して、材料の色や形などのおもしろさを生かしながら、つくり方を考えて自分らしく表現することができるようにする。紙のあき箱は、入学以来、慣れ親しんできた材料である。既習の接着方法を使い、積んだり、つないだり、組み合わせたりして家の形を容易につくることのできる。今回の学習では、あき箱を積んで形づくるだけでなく、箱の中に自分の世界を表現する。そのためには、はさみを使って、一部を切り開いたり、切り取ったりするなど、加工の仕方を工夫する必要がある。ま

た、自分たちで集めた身近材や、自然豊かな学校周辺で見つけたどんぐりや木の枝などの自然物を材料とし、その形や色、感触を生かし、家の中に必要なものを、暮らしの様子を想像しながらつくことで楽しさが広がっていく題材である。更に、町づくりを通して、友達や自他の作品、場などと対話しながら、表現を深めていくこともできる題材である。

- 指導に当たっては、「高蔵の町」を舞台にすることで、意欲を高め、児童の主体的な活動につなげたい。自分人形を使い、遊びながら、場や作品と対話することができるようにする。また、事前に学習内容を伝え、家庭で空き箱などの材料集め、自分の「たからばこ」に貯めることで、本題材へのイメージや意欲を高めさせたい。あき箱や身近材と十分に関わる時間を取り、材料から感じたことを交流し、つくりたいものと材料とを結びつけるウェビングマップを「言葉のパレット」としてつくことで、材料の特徴を生かした表現につなげたい。

3. 研究の着眼点

【視点1】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

① 題材設定の工夫について

児童は、入学以来、遠足や校区の行事、生活科の学習の中で自然あふれる「高蔵の町」のよさを経験してきた。そこで、表現の舞台を「たかくら」にすることで、今までの経験の中で感じたことを基に発想を広げたり、暮らしの様子を想像しながらつくことを楽しんだりすることを狙う。また、生活科と関連付けた内容にする。生活科で見付けた自然物も材料の一部とする。更に、「ゆめのまち たかくら」ができあがったら、生活科の学習で、地域の保育園児を招待して、一緒に遊ぶというゴールを設定することで、相手意識をもってより意欲的に表現できるようにする。

② 題材との出会わせ方や展開の工夫について

「であう」場面では、つくった家を並べる舞台となる「たかくら」の町と出会う。「たかくら」には、学校の歓迎遠足で行った高蔵森林公園や、校区の「ほたる鑑賞会」で行った吉田川、生活科「こうえんであきをさがそう」で行った公園をシンプルに配置しておく。そこに、画用紙でつくった自分人形を場に置き、「ここに、みんなのゆめのまちをつくろう」と提案する。人形を使うことで、場を感じ、自分が表したい家や、そこで遊ぶ自分の姿を想像しやすくする。

「みつける」場面では、箱を選び、組み合わせたり、積み重ねたりする時間を十分にとり、自分のつくってみたい家のイメージをふくらませる。また、その他の身近材とも触れ合い、材料の特色を感じられるようにする。「あらかわす」場面では、身近な材料を使うことに加え、既習の表現方法の活用により、浮かんだイメージをもとにつくったり壊したりを何度も試しながら、多様な表現の中から自分の思いに最も適した形や色、材料を見付け出していくようにする。また、活動の場を工夫することで、友達や友達の作品と関わりながら、より工夫して表現できるようにする。

「あじわう」場面では、町づくりをする。お互いの家を行き来して遊びながら、友達の作品のよさを見つけられるようにする。また、園児に町を紹介しながら一緒に遊ぶことで、自分たちの作品のよさを再確認できるようにする。遊びやすい場の設定の工夫もする。

【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

① 感じたことを共有する言語活動について

用いる材料は、新たに買うものではなく、家庭や学校にある見慣れたものに限定することで、

材料との対話が生まれやすくする。材料に十分触れ、感じたことを交流して「言葉のパレット」づくりに取り組むことで、材料の触り心地や形、色を生かしながら表現の可能性を広げていく。「夢の家にあつたらいいなと思うものは？」→「それって、どんな感じ？」→「じゃあ、何でつくるうか？」という順でウェビングマップを広げていく。台紙、付箋とも、ピンク、水色、黄色で色分けすることで、段階を追って発想を深めて行くことができるようにする。できたウェビングマップに材料サンプルを貼り、あらかず場面で材料選びの手がかりとなるようにする。

② 対象との対話の積み重ねと学習評価の工夫について

本題材は、「遊ぶこと」で友達や自他の作品、場などの対象と積極的に関わりやすいものである。遊びながら発見したり、比較したりして、主体的に感じ、それをもとに発想をふくらませる。「あらかず」場面でも、遊ぶことで、よりよい表現の方法を見付け、自分の表現に生かすことにつながる。

毎時の学習を振り返る「ふりかえりシート」は、一部写真を取り入れるようにする。児童が自分で撮影することで、その時間の自分を振り返ることができる。また、1年生でも、2分程度で記入できるカードをつくることで、活動の時間を保障しつつ、次時につながるように記録する。記入内容から児童の思いを把握し、支援に生かす。また、題材の最後に「がんばったよカード」に取り組む。自分がやったこと、感じたことなどを、絵と文で表現し他者に伝える活動である。「ふりかえりシート」や「がんばったよカード」の記入内容は、作品や学習中の見取りと共に、学習のめあてが達成できているかを見取る材料とし、指導と評価の一体化を図る。

4. 特別な教育的支援を要する児童に対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて	対象児童	番号
友達とのコミュニケーションが苦手	人形を通して会話するようにする。	A児	①
発想を広げることが苦手。何をつくりたいか決めるのに時間がかかる。	思いを聞き取り、個人のウェビングマップを一緒につくる。あらかず段階では、ウェビングマップを手元に置く。	B児 C児	②
材料を見て、何ができそうか考えることができない。	言葉のパレットを参考にして、自分の思いに合った物を見つける。	A児 D児	③

5. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 住んでみたい家をつくったり、遊んだりする活動を楽しもうとする。
発想や構想の能力	○ 遊んだり、想像したりしながら、つくってみたい家のイメージをふくらませることができる。
創造的な技能	○ 紙箱や紙を切る、組み合わせる、はるなど、自分らしい表し方を工夫することができる。
鑑賞の能力	○ 自分たちの家を並べて、町をつくり、交流して遊びながら互いのよさを感じ取ることができる。

6. 指導計画と評価計画（総時数7時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準および評価方法
であう	<p>1 自分が住んでみたい夢の家を発表する。②</p> <p>(1)自分人形をもって、「たかくら」に行く。</p> <p>(2)住みたい家を考え、発表し合う。</p> <p>(3)材料と触れ合う。</p>	<p>◎ <u>主体的・対話的で深い学び</u></p> <p>★ 特別な教育的支援を要する児童への特に困難とされる場面での支援</p> <p>○ 「たかくら」に、自分人形を置き、楽しい気持ちでつくってみたい家を想像できるようにする。</p> <p>★ 手だて①</p> <p>◎ <u>交流する中で、表したい家の様子を想像できるようにする。</u></p> <p>○ ウェビングマップづくりで、発想を広げられるようにする。</p>	<p>【関】自分の住んでみたい家を想像することを楽しんでいる。</p> <p>(発表、ふりかえりシート、ウェビングマップ)</p>
みつける・あらわす	<p>2 空き箱を組み合わせて、自分の夢の家をつくる。③</p> <p><本時2/3></p> <p>(1)箱を積み重ねたり、並べたりして、家の形を考え、家のおおまかな形をつくる。</p> <p>(2)部屋の中や外の様子を想像しながらつくる。</p>	<p>○ あき箱や身近な材料から、自分の思いに合った材料を選ぶようにする。</p> <p>○ 接着剤、のり、ホチキスなどで接着できることを確かめ、材料に合った接着方法を選ぶようにする。</p> <p>○ あき箱の組み合わせ方をいくつか示し、発想の手がかりとなるようにする。</p> <p>◎ <u>自分人形をもって、友達の「家」を見に行き、人形の目線を通して友達の工夫を見つけ自分の表現に生かす。</u></p> <p>★ 手だて②③</p>	<p>【発】遊んだり、想像したりしながら、つくってみたい家のイメージをふくらませている。</p> <p>(行動観察・ふりかえりシート)</p> <p>【創】紙箱や紙を切る、組み合わせる、はるなど、自分らしい表し方を工夫している。</p> <p>(作品・行動観察)</p>
あじわう	<p>3 友達と町をつくって一緒に遊ぶ。②</p> <p>(1)作品を並べ、家の周りのものをつくり町にして遊ぶ。</p> <p>(2)「がんばったよカード」をつくる。</p>	<p>◎ <u>友達と家で遊びながら、思いやり方の工夫に気付く。</u></p>	<p>【鑑】自分たちの家を並べて、町をつくり、交流して遊びながら互いのよさを感じ取っている。</p> <p>(行動観察・がんばったよカード)</p>

7. 本時の学習 平成30年11月6日(火) 第5校時 さんさんルーム



(1) 主眼 あき箱や身近な材料を組み合わせる自分の夢の家をつくる活動を通して、材料を生かした表し方ができるようにする。

(2) 準備

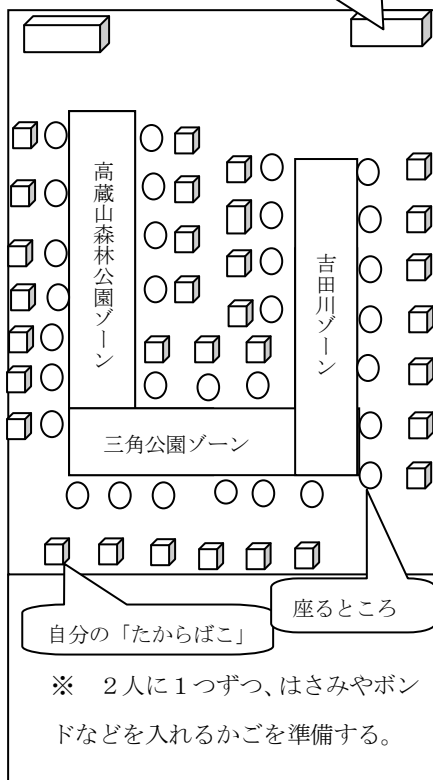
① 教師 画用紙、カラー造形紙、両面テープ、ホチキス、接着剤、グルーガン、かご(道具入れ)、お手ふき、個人用ゴミ袋

② 児童 はさみ、紙製のあき箱(はさみで切れる程度の厚さ)、家や材料銀行で見つけた身近な材料(ラップの芯、包装紙、モール、折り紙、布、ボタンなど)、生活科で集めた自然物(どんぐり、松ぼっくり、枝など)、既習の題材の残った材料(カラーセロハン、お花紙など)

(3) 展開

展開	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法) ★ 特別な教育的支援を要する児童への特に困難とされる場面での支援のポイント ◎ <u>主体的・対話的で深い学び</u>
であう	<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1)教師の作品例を見て、考えを出し合う。</p> <div data-bbox="236 1191 1273 1263" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて いろいろな たからものをつかって、ゆめの おうちをつくろう。</p> </div> <p>(2)用具の使い方を簡単に振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はさみの使い方 ・接着方法 	<p>○ 箱を組み合わせただけの作品例を提示し、どんな表現をすれば楽しい夢の家になるかについて考えを出し合うことで、活動の見通しをもつことができるようにする。</p> <div data-bbox="692 1039 1458 1178" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>滑り台やふわふわのベッドがあるお家にしたいな。どの材料でつくろうかな。</p> </div> <p>○ 安全に気を付けて活動できるように、用具の使い方を掲示しておく。</p>
みつける・あらわす	<p>2. 家の中や外の様子を想像しながらつくる。</p> <div data-bbox="213 1671 501 1895" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>小さい箱を少しずつずらして重ねたら、階段みたいになりそうだな。</p> </div> 	<p>◎ <u>「たかくら」の町を取り囲んで活動することで、自然にお互いの表現を見合ったり、友達と対話したりしながら、より工夫してつくることができるようにする。</u></p> <p>★ 手だて②</p> <div data-bbox="705 1697 1426 2065" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ B児については、初めに声をかける。ふりかえりシートの記入内容から、どんな家をつくりたいか把握しておき、似ているものをつくろうとしている友達の表現を一緒に見に行く。 ◆ C児については、ウェビングマップを一緒に振り返って、自分の想像しているもの全体を見えるようにしてみる。 </div>

《設定した場の図》

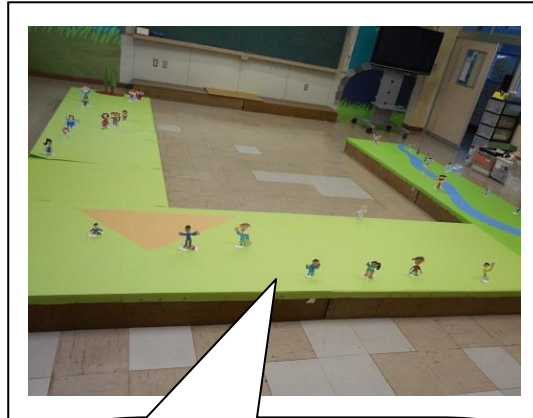


手だて③

◆ A児, D児については, 必要に応じて, 一緒に「言葉のパレット」を見ながら, 材料を触って, 思いを聞き取る。

【創】 あき箱や身近な材料の色や形, 触った感じなどを生かして, 自分らしい表し方を工夫しようとしている。

(作品, 行動観察)



自分人形でお散歩したよ。

あ
じ
わ
う

3. 本時の学習を振り返り, 次時の学習の見通しをもつ。

- (1) 友達の家を見て回る。
- (2) 全体で交流する。
- (3) ふりかえりシートを書く。



◎ 自分人形をもって友達の家遊びに行き, 次回試してみたい友達の工夫を見付け, 言葉で伝え合う。

〇〇さんのお家は, 動くエレベーターがありました。私のお家にもつくってみたいです。



エレベーターは, 細長い箱と糸を使ってつくりました。動くようにつくり、うれしかったです。

○ 全体で交流する場面では, どの家のことを話しているのかが全員に見えるように, デジタルカメラとテレビをつないで活用する。

今日の学習で目指す「熱中する子どもの姿」

材料の形や色, 手触りなどを生かしながら, 表し方を工夫して, 自分だけの「ゆめのおうち」を形にすることを楽しむ子ども。